

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01522

研究課題名(和文) アフリカ諸国の学校体育の特質と我が国の国際協力のあり方に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Characteristics of the School Physical Education in African countries and Japan's International Assitance

研究代表者

齊藤 一彦 (SAITO, KAZUHIKO)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：60413845

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アフリカ諸国の学校体育の実情を明らかにしながらその特質を導出し、当該分野の我が国の国際協力のあり方を検討することを目的として行われた。特に、アフリカ諸国の学校体育の教育的位置づけや学校体育の実情、さらには体育教員養成などに着目しながら、アフリカ諸国の学校体育の普遍性や特殊性を導出しようと試みた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the similarities and particularity of how physical education(PE) is treated in African countries, from the aspects of the position of PE in the educational system, the characteristics of school PE, and the teacher training system for PE.

研究分野：スポーツ教育学

キーワード：開発途上国 学校体育 国際協力

1. 研究開始当初の背景

諸外国の体育教育事情についての研究は、19世紀以降盛んになり、オリンピック競技が外国の体育やスポーツに関する興味を引き出し、1970年には「国際比較体育・スポーツ学会」が創設されるなど、独自の分野として注目が注がれるようになってきている。一方で、これらはいわゆる“先進国”を対象としたものが多く、開発途上国の体育教育事情の研究は少ないのが現状である。特に、これまで研究がなされていない地域はアフリカ諸国やラテンアメリカであることも指摘されている。例えば、アジア諸国の体育事情については宇佐美（ミャンマー）、岡田（カンボジア）、松岡（ネパール、ブータン）らが一定の研究成果を残しており、中近東諸国については齊藤（シリア、エジプト、ヨルダン）の研究もある。しかし、アフリカやラテンアメリカに関する研究については、アフリカの舞踊関係の研究はわずかに散見されるものの、学校体育の実情に関する研究はほとんど着手されていないのが現状である。しかしながら、開発途上国への体育科教育支援で中心的な役割を担ってきた青年海外協力隊の派遣状況をみると、近年、アフリカからのニーズが急増している。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に関連した、国際社会への公約「スポーツ・フォー・トゥモロ」の動きと共に、学校体育分野の開発途上国への国際協力の注目度は益々高まってきている。

このような状況の下、本研究はこれまでに学校体育実情報告が少なく、且つ我が国への支援ニーズの高いアフリカ諸国を対象に、当該諸国の学校体育の特質を明らかにし、今後の国際協力への示唆を得ようと試みた。

2. 研究の目的

上記の問題意識に鑑み、本研究ではアフリ

カ諸国のうち、近年多くの体育隊員が派遣されている国々の学校体育の制度を明らかにしながら、その共通性や特殊性などを明らかにしようとした。また、この結果から我が国が今後、アフリカ諸国に対してどのような国際協力が可能となるのかについて提案しようと試みた。

3. 研究の方法

開発途上国の学校体育に関する国内外の先行研究をレビューし、アフリカ諸国の学校体育の実情と研究の動向などを分析した。また、調査対象国をザンビア、ウガンダとし、両国へ赴いた青年海外協力隊員の隊員報告書からも情報収集を行った。その上で、上記二カ国については、下記の点を検討した。

- (1) 社会的・文化的背景を整理した上で、教育制度における体育の位置を明らかにする。まずは体育行政制度の概要を踏まえた上で、教育の目標とその中での身体面の記述、体育及び関連科目の配当時間数や、評価方法などを明らかにする。
- (2) 学習指導要領や体育教師用ガイドブックなどを用いて、初等・中等教育における学校体育の目標・内容について、国毎の相違点などに着目する。
- (3) 教育統計や教員養成機関についての資料及び現地関係者との聞き取り調査により、体育教員養成システムの特徴を明らかにする。具体的には養成機関の数、教職員の資格、学生数や男女の比率、養成カリキュラムの特色、入学試験の内容などを検討する。
- (4) 体育教育行政官に対しインタビュー調査を実施し、行政官が学校体育の意義と役割をどのように捉えているのかを明らかにする。特に、身体面の教育に何を期待しているのか、今

後の課題をどのように捉え、どのように発展させようとしているのかについての関係者の意識を明らかにする

以上の点について、文献調査及び現地調査から明らかにしようとした。さらに近隣のアフリカ諸国の学校体育の情報も加え、それらを比較検討しながら各国の特殊性や共通性について検討した。

また、当該諸国への国際協力の実施状況を整理し、我が国の関わり方について関係者との協議を行い、本研究での調査結果が着実に実践に活かされるよう試みた。

4. 研究成果

本研究成果の概要は下記の通りである。

(1) 学校体育制度について

ザンビアでは、初等教育では体育が教科として独立しておらず、必修の複合教科の一部として取り組まれている。そのため、十分に子ども達が体育を学習できていない可能性がある。中等教育では体育は独立教科となるものの、コース選択制となるため、体育・スポーツコースに所属する生徒のみが体育を学習している。したがって、体育を受ける生徒は限られる状況にある。

ウガンダでは初等教育では学校体育は独立した教科としての取り扱いとなっている。一方、中等教育において科学的教科の一部として取り扱われており、「身体活動への参加から次第に知識の習得や応用に重きが置かれる」傾向が見受けられた。また、前期中等教育は、カリキュラムの策定が初等教育に比べて遅れているために、学習領域や指導内容の規定がされていないなどの課題が見受けられた。

(2) 学校体育の実態について

ザンビアでは、特に、運動施設及び設備、

用具・器具の不足が大きな課題であり、また、体育教師の教授技術及び専門的知識に課題があることも明らかとなった。

ウガンダにおいても、ザンビアと同様の課題を有しているが、特に、体育教員の不足が関係者の最優先課題として捉えられていた。

(3) 体育教員養成について

ザンビアでは、教員資格の変更に伴い、国内の教員養成機関で体育教員の資格を取得できない状況が発生している。さらには教員養成機関の教員の体育に関する専門的知識や経験の不足なども大きな課題であることが明らかとなった。

ウガンダでは、教員養成校と大学において、教員養成がなされている。大学ではスポーツ科学の一環として、スポーツやレクリエーションとともに学習されるしくみとなっており、また、教員養成機関の入試試験やカリキュラムの内容から、スポーツに関連した科学的な知識の習得に重きが置かれている傾向が推察された。

以上の通り、両国において、体育が初等・中等教育を通じて、一貫して独立した教科の取り扱いとはなっておらず、さらに、施設不足や専門的に指導できる教員が不足していることなどから、国民の多くが義務教育段階で体育を学べる状況には至っていないことが明らかとなった。さらに体育教員を養成する機関にも、実技分野での養成教育を担当できる人材が不足しており、今後の課題となっていることが明らかとなった。

また、他のアフリカ諸国の実情などを比しても、これらと同様の課題を有している状況が見受けられた。わが国が、今後これらの国々と関わる中で、日本の学校体育の仕組みやカリキュラムをそのまま紹介する形ではなく、各国の状況に基づいた、現実的に実施

可能な体育シラバスなどを共同開発していく方針等がより強調されるべきであろう。特に、体育教員の力量不足という現実を考えると、教員向けのワークショップの開催などを、青年海外協力隊などの草の根レベルのスキームのみに期待するのではなく、わが国の省庁、体育関係機関、大学などとの連携の中で、促進していくための検討も必要ではないかと思われる。

そのためにも、当該分野の研究成果のさらなる蓄積が不可欠であろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

牧内健将・齊藤一彦・岩田昌太郎・八並孝行、ナイジェリアの体育事情に関する研究 学校カリキュラム及び教員養成システムに着目して、中国四国教育学会『教育学研究紀要』、査読無、64 巻、2017、751-756

齊藤一彦、横田知佳、ザンビアの身体教育事情に関する基礎的研究 学校体育と体育教員養成に着目して、学校体育実践学研究、査読無、2018、107-113

岡田千あき、齊藤一彦、「開発と平和のためのスポーツ」に関する課題整理：スポーツ・フォー・トゥモロウの実現に向けて、運動とスポーツの科学、査読有、22 巻 1 号、2016、1-7

齊藤一彦、学校体育の国際貢献、体育科教育、査読無、63 巻、2015、44-47

[学会発表](計 9 件)

牧内健将、齊藤一彦、岩田昌太郎、八並孝行、ナイジェリアの体育教員養成カリキュラムに関する研究、中国四国教育学会第 69 回大会、2017

八並孝行、丸田慶彦、齊藤一彦、ウガンダにおける体育の現状と課題、日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第 15 回大会、2017

横田知佳、齊藤一彦、ザンビアの体育に関する研究 学校体育と体育教員養成を中心に、日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第 15 回大会 2017

Yokota Chika、Makiuchi Kensho、Felix David、Saito Kazuhiko“A study on the characteristics of school physical education in Zambia ” 22th Annual Congress of the European College of Sport Science、2017

齊藤一彦、国境を越えて：開発途上国における体育科教育、第 9 回 SDP 研究会、2017

横田知佳、齊藤一彦、開発途上国に対する運動会支援のあり方に関する研究、日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第 14 回大会、2016

丸田慶彦、齊藤一彦、ウガンダ共和国の中等教育段階における学校体育の実情に関する研究、日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第 14 回大会、2015

白石智也、岩田昌太郎、齊藤一彦、青年海外協力隊における体育隊員の技術補完研修の質向上に向けた事例研究 隊員へのインタビュー調査から、日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第 13 回大会、2015

牧内健将、齊藤一彦、岩田昌太郎、開発途上国に対する学校保健分野の支援に関する研究、日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第 13 回大会、2015

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齊藤 一彦 (SAITO KAZUHIKO)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：60413845